

令和 7 年度第 2 回モニター会議の総括案について

1 事業実績

- (1) 日 時 11 月 6 日（金曜）18 時 30 分～20 時 15 分
- (2) 場 所 役場 3 階委員会室
- (3) 手 法 参集／オンライン
- (4) 出席者 モニター11 名（うちオンライン 1 名）／ 議員 15 名
- (5) 議論テーマ：
 - ① 常任委員会抽出事業
 - ・ 総務経済常任委員会
「まちなか再生推進事業」「協働のまちづくり活動支援事業」
 - ・ 厚生文教常任委員会
「地域に必要とされる医療提供体制と持続可能な公立芽室病院の経営強化策」
 - ② 議員定数と報酬について
 - ・ 内 容 2 グループに分かれてグループワーク

2 事業総括

- (1) 成 果：概ね達成したが、内容については改善が必要

各常任委員会におけるそれぞれの抽出事業について、資料に基づき報告と説明をし、その後、2 グループに分かれてグループワークを実施した。（当日欠席されることも想定しながらのグループ編成とした）議会モニターのみなさんが対話しやすい場とするために、レイアウト等に工夫をこらし、参加者からの意見・要望・提言を広く聴取することにつながった。一方で、議論する時間が足りなかったとの意見もあり、今後の課題として改善していく必要がある。
- (2) 課 題
 - ① いただいた意見を各常任委員会であらためて整理し、今後の調査や議論に活用していく。
 - ② 常任委員会からの説明の際に手元に資料がないため、急きょ進捗工程表を印刷して配布した。わかりやすい資料と説明の準備が必要と考える。
 - ③ 欠席された議会モニターからのアンケート回答がなかった。今後より丁寧な意見聴取についての検討が必要。

3 参考資料

- (1) グループ記録
- (2) 意見取扱フロー
- (3) 議会モニターアンケート（出席者）
- (4) 議員アンケート

(1) グループ記録

A グループ

■出席議員：木村、常通、正村、早苗、橋本

■参加者：甲斐さん、工藤さん、尾藤さん、平岡さん、深井さん（5名）

カテゴリ	テーマ	意見交換内容
総務経済 常任委員会 抽出事業	まちなか再生 事業	・本町でもパーク PFI が進んでいるが、町民と事業者との関係性構築が事業推進には重要だと視察報告を聞いて思った。 ・「まちなか再生」と言われているが、空き店舗は依然として残っており、どのような姿を目指して再生を進めているのか、その具体的なイメージが見えにくい。 →（回答）：新しい店舗の出店も見られるものの、既存店舗は老朽化が進み、店舗と住宅が一体となっているケースも多い。そのため、店舗を閉めても住宅として居住が続く状況にあり、土地利用の更新が進みにくい。こうした状況を抜本的に変えるには、土地区画整理事業の実施が効果的と考えられるが、町としては現時点で実施の考えを持っていない。 ・福祉事業者が参入しやすいように空き店舗情報をわかりやすく発信してほしい。 →（回答）：まちなかのにぎわいを創出するためには、経済効果を目的とした店舗の誘致だけでなく、福祉事業所など多様な機能が入ることで、新たな人の流れが生まれる可能性がある。 ・まちなかの店舗の老朽化が進む中、現在の中心市街地にこだわらず、場所を移して新たにまちを形成する発想がなければ、にぎわいの再生は難しい →（回答）：帯広市と芽室町の境界は都市計画上で明確に区分されており、芽室町は帯広市と住宅地や商業施設が連続するようなまちづくりの計画になっていない。
	協働のまちづくり支援事業	・地域とのつながりを持ちたいとの思いから、法人として町内会への加入を申し込んだが、前例がないことを理由に受け入れられなかった。 ・移住者であるため、地域住民同士の関係性を十分に理解することが難しく、地域の人々と直接会う機会も多くない。 ・町内会加入者が少なく、役員のなり手にも苦労している。いずれ町内会も限界にくるのではないかと考えている。 ・コミュニティの必要性が理解できない。 →（回答）：ひとりでは解決できない課題を地域全体で解決することによって、自分たちの暮らす地域をより住みやす

		くしていくことが、コミュニティの基本的な考え方である。習志野市の地域担当職員制度は、こうした自治活動をまちづくりの仕組みとして位置づけ、行政が制度的に支えている点が特徴的であり、成果を上げている好事例であった。
厚生文教 常任委員会 抽出事業	公立芽室病院	・リハビリ事業を実施しているが、町民のニーズを十分に把握しているのか疑問がある。院内でのリハビリを重視するのか、訪問リハビリの充実を目指すのか、目的や方向性が明確でない。 ・待ち時間が長いのではないかと、思い、公立病院に行ったことがない。 ・総合病院であるため、帯広まで出向かなくても医療を受けられ、利便性が高い。

B グループ

■出席議員：立川、西尾、中村、堀切、小笠原、伊藤

■参加者：福中さん（オンライン）、保志さん、山本さん、横山さん、吉田さん、
類家さん（6名）

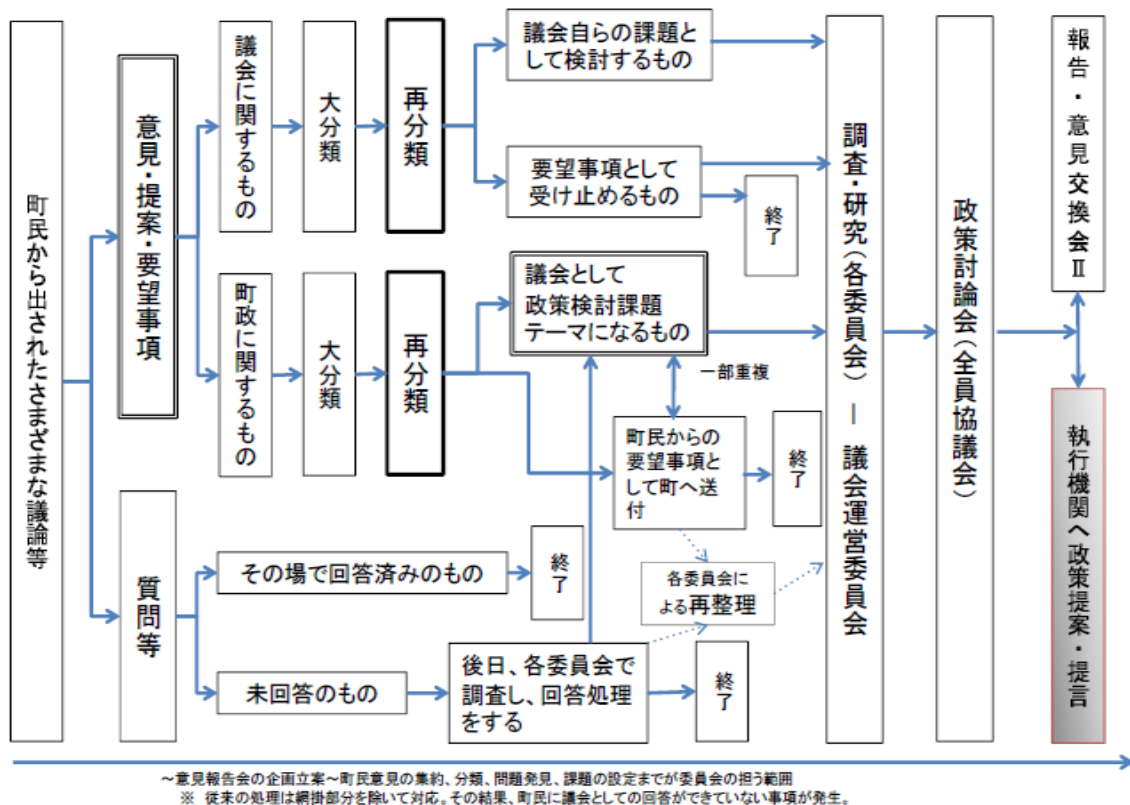
		意見交換内容
総務経済 常任委員会 抽出事業	まちなか再生 事業	（説明）芽室町の地域担当制の現状、習志野市の地域担当制（まちづくり会議）、志木市の Park-PFI（いろは親水公園）などの説明。委員会として、第6期総合計画への視点と考えている。 Q：地域コミュニティづくりについて ・町内会地区協議会に参加しているが、役員になる人は限られている。総会に出席したら、役員になる現状。 ・町内会に参加するという意欲の欠如、魅力が伝わる仕組みづくりが大切。 ・2020年に芽室へ移住。かつての賑わいを取り戻すとの説明があったが、かつての「賑わい」がわからない。 ・中高生が集える場所が必要。習志野市の「まちづくり会議」の様に色々な方々が参加し、協働のまちづくりを進めることが大切と思う。 ・様々な活動をしている芽室町と思うが、新たな店舗、空き店舗の活用による活性化策が重要。 ⇒志木市のまちなか再生（企業支援）、いろは親水公園、芽室町においても空き店舗について調査の段階、本町における Park-PFI について（公園からまちなか）等について説明。 ・まちづくりを考える時、周辺自治体の状況も考慮する必要がある。 （志木市の隣町は？習志野市の隣町は？）

		・特色を生かしたまちづくりが重要。色々な方々の意見を聞く会議体の設置。 (特急が止まる町、農業の町など)
厚生文教 常任委員会 抽出事業	公立芽室病院	Q：公立芽室病院はどうあるべきか？診療体制、機能などについて。 ・コミュニケーションがはかれる場所であってほしい。 ⇒経営改革に取り組み、職員の意思疎通を図っている。 ・住民ニーズの把握が必要。 ・予防対策およびリハビリ機能の充実。 ・生活習慣病など年齢層に適したニーズ把握。 ・遠隔治療の推進。地域にとって必要な病院。 ・公立芽室病院があることも芽室へ移住した大きな条件だった。 ・気軽に受診できる病院。オンライン診療の充実。

※いただいたご意見は、取扱いフローに基づき、今後の各常任委員会での抽出事業及び「議員定数と報酬の見直し」において、調査・議論につなげていく。

(2) 意見取扱フロー

芽室町議会「議会報告と町民との意見交換会」の意見・提案・要望等の取り扱いフロー



(3) 議会モニターアンケート（出席者）

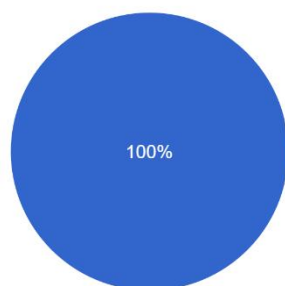
令和7年度 第2回議会モニター会議 アンケート結果

（議会モニター出席者 11 名中：回答 6 名）

令和7年 11 月 15 日集計

1. 開催した日時や開催時間はいかがでしたか？

6 件の回答

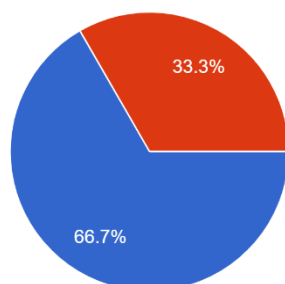


● 概ねよい
● 改善が必要

①概ねよい	6
②改善が必要	0

2. 当日の運営について（方法、内容、進行など）いかがでしたか？

6 件の回答



● 概ねよい
● 改善が必要

①概ねよかった	4
②改善が必要	2

2で②と回答された方は具体的に記載願います。（3 件の回答）

- ・限られた時間で、話し合う議題が多く、モニターの意見を十分に聞き取れていなかったのではないかと感じる部分があったため。
- ・オンライン参加でしたが、音声聞こえない場面がありました。

3 各常任委員会での取組みについてご意見やご感想、今後に期待することなどありましたらご自由に記載願います。

- ・たまたまではありますが、私の住んでいる地区では子供が多く、町内会活動も案外盛んです。先日食事会がありました。シニアの人数と子供の人数に大差なく、和気あいあいとレクをしたり会食したりできました。色々な偶然の要素もあると思うのですが、1 番は地域が子供達（ファミリー層）を大切にする。そうすれば、その親も我

が子のために協力的になる。結果シニア世代にも恩恵が来る。といった流れはいいな一思っています。あと、地域（町内会）の活動は極めてアナログ（回覧板やチラシは手交又はポスティング）、時代に合わせていけないといけないですね。また、若者が町に集まるような仕組みをより強化したいですね。その意味では芽室高校の 1 間口減は残念で。十勝内でのパイの奪い合いにはなりますが、ファミリー層に魅力を感じてもらえれば（事実すでに魅力的なのですが。）より若年層の移住は促せると思います。町中の新規出店にもより手厚く、移住にもより手厚く。あと、南公園付近の公営住宅？の老朽化が気になります。かなり偏った考えかもしれませんが、駅前の空き店舗も含めて、寂れてる雰囲気って、本当によくないです。権利とか取り壊し費用とかあるとは思いますが。家を建てたい、仕事を始めたい。そういう人が円滑に芽室の土地でスタートできるようにできたらいいな一思っています。病院の件は知識がなく難しいですが、病院がなければ人口減は加速しますよね。やはり、緊急でも診てくれる病院がなければ、不安は大きいです。過去に、田舎に住んでいる親類が、適切な処置を受けていれば亡くならず済んだのでは？と思うこともあったので。

- ・公立芽室病院について。この規模の自治体に公立の総合病院があることは、とてもいいと思いますが、現在の診療形態を考えると必ずしも公立でなくてもよいのではないかと思います。公共サービスという観点を考えると必要な側面もよく理解できますが、財政の面から考えると、率直に本当に必要な公共財なのかと思う部分もあります。確かに公立だからこそ、これだけ充実した医療機関があることは重々承知できます。しかし、赤字経営が続いている以上は、何らかの形で規模の縮小（診療科の削減など）を検討していかなければならないと思います。診療科の統合（総合診療科を核として、他科を廃止するなど）を考えたり、公益財団法人や医療法人として、自治体から独立させた立場から医療を展開していくことによって、質の高い医療を展開できると考えます。これは、帯広に近い自治体だからこそできるのではないかと考えます。総合診療科・整形外科・訪問看護・リハビリテーション科など精選した形で運営していくことが、公立として安定した医療サービス提供によいのではないかと思います。まず最初の段階で地域から頼られる病院。そして長期的に医療を受けなければならない時の病院として存在してもらえたらありがたいです。
- ・視察の報告があり、他の自治体の事例を参考に協議していることがわかりました。
- ・住民のニーズを広く聞くこと、そのための手立てを考えること。
- ・自分の反省なのですが、事前にテーマについて、勉強や調べをもっとしておけばよかったです。せっかく多様な方々と議論できるので、質問も用意して参加したいと思いました。

3 議会では取組んでいる「議員定数と報酬の見直し」について、議会原案に対するご意見

やご感想、今後に期待することなどありましたらご自由に記載願います。

- ・ 原案に大賛成です。生活に必要な額の報酬は受け取るべきです。他に自営で収入がある以外は、議員の報酬で生活をしていかなければなりません。そのためには現状の報酬では足りません。 もちろん、税金を使うことになるのでそれ相応の覚悟が必要だと思いますが、そこを踏まえた上での引き上げだと思うので、私は大いに賛成します。
- ・ 報酬の引き上げは必要だと思います。生活が維持できない報酬では、立候補者の属性が偏ります。
- ・ 報酬を上げることで成り手が増えるかもしれない。一方でより一層の責任感や資質の向上が期待されるだろう。
- ・ 安易な考えになってもいけないことは承知ですが、人口比から考えると 16 人の議員は多いように思いました。帯広は人口が 10 倍近いですが 29 名ということも踏まえて。 また、年間実働 130 日ではあるものの、月 20 万円とは驚きました。(安すぎて) よほど経済的にゆとりのある方でないと、議員はできないなと思います。個人的な感覚では、子供のいる 30 代、40 代だったら月 30 万でもかなり厳しいです。 なので、総合的に判断すると、議員数を減らして 10 名程度、仕事量を増やして本業として取り組むことができるようにし、月 40 万円(議長も一律で) ほどがよいかと思います。
- ・ 本日の最後、今回の報酬見直し案に好意的とお伝えしましたが、帰宅後いろいろ考え、現時点では「原案に反対」とお伝えいたします。 まず、今回の見直し案のおかげで「議会に期待する＝議会をどう使えるのか？」を多くの方が考える機会になり、とても良かったと思います。 ただ、その「費用対効果」をどうしても考えてしまいます。そこで期待する議会像や議員像を考えたとき、「議論の技術に長けた専門職的議員像」を私は描いたのですが、それは存在しないものだと思います。いたとしても、その人たちの議論はやや現実離れしているのではないのでしょうか。また、その人たちと役場職員と、何が違うのでしょうか。今の議員皆様の姿こそが、芽室らしい議員のありように感じます。尾藤さんのいう「ボランティア的議員像」です。町中で働く人であり、現場を知っている人です。そんな人たちが話し合うからこそ、その結果に「納得感」が生まれるのだと思います。一方、物価高の中、据え置きで良いとは思えませんので多少の増は必要。同時に仕事量や議会の時間帯を見直し、議会活動のために休めるよう職場の理解を進めて、「兼業議員」を増やす方向性はいかがでしょうか。また成り手不足についてですが、皆さんの「弟子」「後継者」のような方はいないのでしょうか。「現場を知る議員」「多様な価値観が持ち寄られる議会」「政治的立場を互いに理解した上で、あらたなアイデアを生む議論をファシリテートできる議員」という姿を見たいです。今回の見直し案こそがそんな姿が実現すると私を納得させていただけるのなら支持したいと思います、私はどちらかというと、今回の見直し案は、「政治を仕事にしたい人」を生み出しそうで心配です。「政治というツールを使って町を良くしたい人」こそが、必要だと思うからです。 また、考えたいと思います。

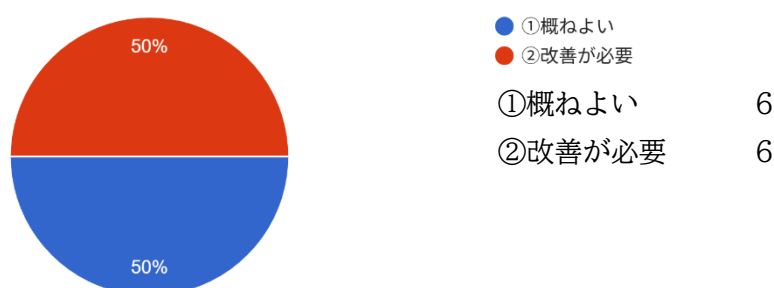
(4) 議員アンケート（出席者）

令和7年度 第1回議会モニター会議 アンケート結果 （議員15名中：回答12名）

令和7年11月15日集計

1. 当日の運営について（委員会説明、資料、方法、内容、進行、時間配分など）

12件の回答



1で②と回答された方は具体的に記載願います。

- ・ボリュームがあって定数と報酬についてもですが全体的に話が薄くなった感じがする。
- ・先日の議会モニター会議では、各常任委員会の報告をはじめ、議員定数や報酬など多岐にわたる内容が取り上げられ、盛りだくさんの会議となった。モニターの皆様にはそれぞれの項目について意見や感想を伺ったが、1時間半という限られた時間の中では、どのテーマも十分に議論を深めるまでには至らず、その場での感想や持論の紹介にとどまった印象である。
- ・1グループ1テーマに絞り込むなどした方がより深く意見聴取ができたと感じる。委員会報告も、限られた時間の中でどうしたら議会モニターに伝わるか、それぞれの委員会で資料や見せ方などもっと議論して臨んでも良いと思った。
- ・問題、題目等が多すぎたのでまとめが難しいかつた様な気がした。
- ・グループワークの人数が多すぎ、意見交換が十分にできなかった
- ・委員会からの説明に時間が要する。説明のあり方、テーマの設定等、グループワークがもう少し時間が取れば良いと思う。特にテーマが多いと満足出来る意見が出にくい。

2. 全体を通して何かありましたらご自由に記載願います。

- ・先進地視察報告を各委員会 5 分程度に要約するのは難しいです。皆さん頑張りました。
- ・2つの常任委員会の抽出事業に対する意見聴取ということで、少し時間不足でした。一つのグループはまちづくり、もう一つのグループは自治体病院について意見を頂いても良かったかなと思いました。素直な意見をいただき有意義でした。
- ・抽出事業が3つあることを配慮はしたがグループワークの時間配分を見誤ってしまった。以前実施したように3つのテーマをモニターに選んでもらい1つのテーマをじっくり深掘りする手法も有効だったかもしれない。
- ・報酬と定数の意見交換での意見で、報酬を上げないで生成 AI 議員の育成をしたら良いとの事。芽室議会議員を否定し侮辱する意見と捉えました。
- ・今回の会議を通じて感じたのは、議会モニター会議の位置づけを明確にする必要があるということである。すなわち、「議会からの報告や説明を中心とする会」として運営するのか、それとも「特定のテーマを設定し、議論を深める場」として位置づけるのか、方向性をはっきりさせた方がよいと感じた。この点については、事前の全員協議会において今回の内容を共有していたが、実際に会議を開催してみて改めて課題として認識した。
- ・モニターのみなさんが議会・議員の使命や役割について十分に理解していないことが、特に定数報酬の意見の中では多く見られた。モニターの任期が始まる際に、議会・議員の使命と役割について伝える場面や資料があっても良いと考える（いま議会だよりに掲載している議会 navi をまとめたものを冊子にするなど）
- ・グループワークの時間が足りなかったように感じた。
- ・総務は、課題が 2 つあったが、1 つに絞り込んだ方が良かったかと思います。報告は良いとしても、グループワークの段階でどちらかに絞り込むとかしたほうが良かったと思います。
- ・地域の交換会とは、若干の相違とか視点の違いが垣間見られて参考になった。
- ・報酬と定数について、聞いたところ AI 議員でも良いみたいな意見が出た時には、正直驚きました。
- ・私の G では移住者が多く、コミュニティの必要性、かつてはどうでもいい、町内会はいらない、街が古くイメージが悪いとか、前向きな議論にならなかった。でも参考になる意見もあった。
- ・議会側からの説明及びグループワークの実施方法等、限られた時間の中で有意義なモニター会議にするためにどうするか？協議が必要。